

いつでも、どこでも、どんな戦争でも 海外で武力行使を可能に

安倍政権
の暴走

「戦争する国づくり」ストップ

平和の願い 日本共産党へ

安倍政権は、集団的自衛権行使容認の閣議決定を具体化する一連の法案を5月の連休明けにも国会に提出し、力づくで押し通そうとしています。



「海外で戦争する国」をつくらうというのが、その正体です。憲法9条をこわす「戦争立法」に、地方からきびしいノーの審判をくだしましょう。

「まちがいなく戦死者がでる」
若者を戦場におくるな

「戦争立法」が強行されたら、「任務の危険性は格段と高くなる。まちがいなく戦死者が出る」(柳澤協二・元内閣官房副長官補)ことはさげられません。

戦争でまっさきに犠牲にされるのは前途ある若者です。若者を戦場におくってはなりません。

「戦闘地域」で「殺し、殺される」

「戦争立法」では、「治安維持」などの名目で戦乱状態のもとにある地域への自衛隊派兵を可能にしようとしています。

アフガニスタンで3500人の死者を出している国際支援隊、4800人以上の死者をだしているイラク多国籍軍などにも、自衛隊が参加する道がひらかれます。

江南でも強まる「戦争への道」

江南市は、「国際平和都市宣言」の市として平和行政の推進に努力するとしています。しかし、市主催の講演会に「憲法改正」の急先鋒、櫻井よしこ氏を招く。また、歴史を偽造し、戦争への道に誘導する教科書選定を迫る議会質問等々、行政も議会も右傾化が強まっています。

戦争か平和かが大争点となっています。「戦争への道」を突っ走る暴走車「安倍政権」に、地方から戦争ストップの声をあげていきましょう。



憲法9条を生かした

平和外交戦略を

「北東アジア平和協力構想」

共産党
の提案

さまざまな紛争や緊張の火種がある北東アジア。しかし、安倍政権のように何でも「軍事」でかまえば、「軍事対軍事」の悪循環におちいってしまいます。

日本共産党は「北東アジア平和協力構想」を提唱し、その実現のために内外で活動しています。



日本共産党小池晃副委員長

公明党は、暴走のアクセル役

「平和の党」の看板で、国民に「戦争立法」をおしつけ

暴走に「歯止め」をかけるところか、アクセル全開で「戦争する国」づくりを推進。集団的自衛権の行使容認の「閣議決定」、秘密保護法・・・、公明党の「協力」で暴走が加速しています。

「北東アジア平和協力構想」とは
日本共産党は、日本が過去におこった侵略戦争と植民地支配の反省を土台に、北東アジア諸国と「平和友好協力条約」を結び、紛争を話し合いで解決する。北朝鮮問題は「6カ国協議」で平和的に発展させる。領土問題の外交的解決をめざし、紛争をエスカレートさせない「行動規範」をむすぶとしています。

